

平成29年度 事業報告書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

名古屋市中村区亀島2丁目6番10号

学校法人大橋学園

目 次

I. 法人の概要	1
法人情報	
建学の精神と教育理念	
法人の沿革	
設置する学校・学科の入学定員、学生数の状況	2
役員・教職員の概要	
II. 事業の概要	3
法人本部	
精和高等専修学校	4
名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校	1 0
ユマニテク短期大学	2 1
III. 施設等の状況	3 0
IV. 財務の概要	3 1
資金収支計算書	
活動区分資金収支計算書	3 2
事業活動収支計算書	3 3
貸借対照表	3 4
財産目録	3 5
監事監査報告書	3 6

I. 法人の概要

1. 法人情報

- (1) 法人名称 学校法人大橋学園
(2) 主たる事務所 愛知県名古屋市中村区亀島二丁目6番10号

2. 建学の精神と教育理念

建学の精神 **「地域を支える次世代を社会に送り出す」**

教育理念 **「豊かな人間性と確かな技術 - ユマニテク - 」**

3. 法人の沿革

- 昭和14年（1939年） ■「ツルー洋裁学院」開設
- 昭和24年（1949年） ■各種学校 認可（愛知県）
- 昭和37年（1962年） ■「学校法人精和学園」法人認可
- 昭和51年（1976年） ■「ツルー服装専門学校」専修学校認可（学校教育法改正）
- 昭和61年（1986年） ■「ツルー服装専門学校」を「精和学園服装専門学校」に校名変更
- 平成6年（1994年） ■「精和学園服装専門学校」を「精和学園ファッション専門学校」に校名変更
- 平成15年（2003年） ■「精和学園ファッション専門学校」を「精和学園文化・ファッション専門学校」に校名変更
- 平成16年（2004年） ■「精和学園」を「あいち大橋学園」に法人名変更
- 平成17年（2005年） ■「名古屋ユマニテク歯科医療専門学校」開設
歯科衛生学科／医療専門課程：歯科衛生士養成施設を名古屋市中村区名駅に設置
- 「精和学園文化・ファッション専門学校」を「精和総合文化専門学校」に校名変更
- 学園本部を名古屋市中村区名駅に変更
- 平成22年（2010年） ■「名古屋ユマニテク歯科医療専門学校」学科新增設
製菓製パン本科他／衛生専門課程：製菓衛生師養成施設を設置
- 「ユマニテク歯科製菓専門学校」に校名変更
- 平成23年（2011年） ■「ユマニテク歯科製菓専門学校」を「名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校」に校名変更
- 平成25年（2013年） ■名古屋市中村区亀島に校地校舎取得及び同校舎改修工事
- 「名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校」付帯事業 お菓子教室Visage（ヴィサーージュ）を開設
- 平成26年（2014年） ■「精和総合文化専門学校」を名古屋市中村区上名古屋より名古屋市中村区亀島へ移転、入学定員を40名から80名に変更

- 平成27年（2015年）
- 精和総合文化専門学校 専門課程「ファッション専科」を廃止
 - 「精和総合文化専門学校」を「精和高等専修学校」に校名変更
 - 「あいち大橋学園」を「大橋学園」に法人名変更
 - 学園本部を名古屋市中村区亀島に変更
 - 「名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校」歯科衛生学科、製菓製パン本科
職業実践専門課程認定 文部科学大臣(2月19日)
- 平成28年（2016年）
- 「ユマニテク短期大学」幼児保育学科
 - ◇ ユマニテク短期大学設置認可 文部科学大臣(10月31日)
 - ◇ 学校法人組織変更認可 文部科学大臣(10月31日)
 - ◇ 幼稚園教諭二種免許状授与の所要資格を得させるための学科等の課程認定
文部科学大臣(11月28日)
 - ◇ 指定保育士養成施設 指定承認 三重県知事(平成29年3月31日)
- 平成29年（2017年）
- ユマニテク短期大学 開学

4. 設置する学校・学科の入学定員、学生数の状況

平成29年5月1日現在

学校	学科	入学定員数	収容定員数	現員数	備考
精和高等専修学校	総合教養学科	80人	240人	182人	
名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校	歯科衛生学科	80人	240人	226人	
	製菓製パン本科	80人	160人	131人	
	製菓マスター科	40人	40人		募集停止中
ユマニテク短期大学	幼児保育学科	100人	100人	31人	1年のみ
計		380人	780人	570人	

※製菓衛生師科(通信課程):記載省略

5. 役員・教職員の概要

- (1) 役員 理事7人(内、理事長1人)、監事2人
- (2) 評議員 15人
- (3) 教職員

平成29年5月1日現在

学校	教員			職員			合計
	専任	兼任	小計	専任	兼任	小計	
精和高等専修学校	9人	15人	24人	2人	----	2人	26人
名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校	21人	68人	89人	7人	----	7人	96人
ユマニテク短期大学	16人	12人	28人	10人	----	10人	38人
計	46人	95人	141人	19人	----	19人	160人

※平成29年度学校基本調査

II. 事業の概要

法人本部

1. 理事会、評議員会の開催状況

- (1) 理事会開催回数 8回(平成29年3月～平成30年5月)
- (2) 評議員会開催回数 6回(平成29年3月～平成30年5月)

2. 監事による監査状況

- (1) 監事 西元 勝也 氏、矢野 範子 氏

(2) 監査状況

理事会等に出席する他、関係書類閲覧等及び期中・期末監査を実施

〔会計監査〕 期中1回、期末2回、計3回 会計監査人(独立監査人)との連携協議含む

〔業務監査〕 期中12回、期末1回、計13回

理事長及び法人本部等との面談による現況聴取及び法人が設置する各学校現場での実地監査を実施(精和高等専修学校、名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校の校長及び事務長からの面談による現況聴取、協議、校舎内視察)

〔監査報告書提出〕 平成30年5月18日

3. 私立学校振興助成法に基づく会計監査人(独立監査人)による監査状況

- (1) 監査契約 受嘱者 公認会計士 佐久間紀事務所 公認会計士 佐久間 紀 氏
公認会計士 片山茂則事務所内 公認会計士 久留美 輝晃 氏
- (2) 上記委託審査担当員 公認会計士 伊藤 堯夫 氏
- (3) 監査報告書提出時期 平成30年6月
- (4) 監事との連携 期中1回、期末1回、計2回

4. 重要事項等

平成29年4月に開学を迎えたユマニテク短期大学の平成29年度(開設年度)の設置経費にかかる設備整備は、当初の計画通り、履行を完了しました。また、事前に協議の照会のうえ、必要な手続きを経た追加施設整備として最寄りの駅から大学迄の通学経路に案内看板(標識)の設置を行いました。

(消費税等込)

内容	契約・発注先	金額	備考等
図書	丸善雄松堂(株)	3,414,000円	1,441冊
案内看板(標識)設置工事	(株)久志本組	2,376,000円	追加整備
合計		5,790,000円	

はじめに

平成 29 年度は、28 年度在籍していた教員の半数以上が入れ替わり（10 名中 6 名）、新しい体制でのスタートとなった。新たに着任した教員（6 名）の力も結集して、教育理念に基づく教育方針及び教育目標の達成を目指したものの道半ばであり、まだ教育内容・教育活動に十分に反映させるところまでは到達できていない。二大重点課題として目標に掲げた、退学率の低減については、各教員によって日々の生徒個々に対するさまざまな指導や相談業務に注力した結果、かなりの改善が見られた。しかし、入学定員の確保については、2 年連続で厳しい状況が続いており、抜本的な広報体制の整備や活動の見直しが必要である。

次年度は、教職員全員が学校として進むべき方向をしっかりと理解し生徒に接することで、生徒一人ひとりが学校への帰属意識を持ち、明るく伸び伸びと学校生活を送ることができるような学校づくりに全力で臨みたい。

I. 基本方針について

1. 教育方針及び教育目標

ありのままの自分をまるごと受け入れ、何事にもチャレンジしようとする生徒の育成に努める

《教育目標》

- ①それぞれの能力(学力)に応じた努力ができる生徒の育成【忍耐力・継続力の育成】
- ②互いの違い(個性)を認め合い、思いやりの心を持った生徒の育成【生命・人権尊重の態度の育成】
- ③自分の考えや思いを、自分に合った方法で表現できる生徒の育成【コミュニケーション能力の育成】

2. 生徒の人材育成像

《求める人物像》

本校の教育方針・教育特色を十分理解したうえで、本校で自分の“夢(将来の目標)”を見つけて一歩でも実現に近づきたいという強い意志と意欲をもった人物

《育成したい人物像》

自己を肯定的に捉え、地域社会に積極的に貢献しようとする人材の育成

3. 経営方針（教職員の行動指針）

- ①全教職員が共通理解のもと、「夢」を持ち、「個性」を生かし、教職員相互の信頼と敬愛に基づく協同体制のもと、生き生きとした学校づくりに努める。
- ②一人ひとりの生徒を大切にし、生徒と共に伸びようとする気持ちと愛情を持って指導にあたる。
- ③保護者(家庭)との連携を密にすることで、学校への不安を緩和し、また、学校への願いや要望を把握することに努める。

- ④一人ひとりが絶えず自己研鑽に励み、自らの専門領域のみならず、総合的な能力のスキルアップを目指す。

II. 平成 29 年度 事業報告

1. 学校運営と教育活動の取り組み

(1) 設置学科の概要及び生徒数

学科名	学年	学級数	定員	実員(※)
総合教養学科	1年	2	80人	56/62人
	2年	2	80人	65/68人
	3年	2	80人	51/52人
合 計		6	240人	172/182人

※H30年3月末/H29年5月1日

(2) 学校運営体制

職 名	氏 名	担 当 (主務内容等)
校長	中尾 聡	法人本部長及び名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校校長兼務
教頭	堤 隆芳	校務運営・広報責任者 担当教科目数 2 / 計 8 時間
専任教員 (常勤講師含む)	鈴木 麻由 (学科主任)	教務(時間割編成, 講師管理等) / 2年A組担任 / 広報 担当教科目数 3 / 計 7.5 時間
	堀江 大樹	3年A組担任 / 広報 担当教科目数 3 / 計 15 時間
	山本 千帆里	1年A担任 担当教科目数 4 / 計 15.5 時間 (※内 TT 4.5 時間)
	松岡 茜	3年B担任 担当教科目数 4 / 計 15.5 時間 (※内 TT 4.5 時間)
	鈴木 貴子	1年B担任 担当教科目数 4 / 計 15 時間 (※内 TT 4 時間)
	舟瀬 さおり	1年副担任 担当教科目数 5 / 計 15 時間 (※内 TT 11 時間)
	伊豆藏 奎吾	2年副担任、9月から2年B組担任 担当教科目数 4 / 計 15 時間 (※内 TT 4 時間)
	飯田 さやか (※7月末で退職)	2年B組担任 担当教科目数 4 / 計 15 時間 (※内 TT 4 時間)
非常勤講師	14人(10月~15人) (内実習助手2名)	教科目数 18 / 計 74 時間 (後期~教科目数 20, 82 時間)
事務長	黒田 貴司	事務全般統括
事務	古賀 ゆかり	事務全般

▲TT; チーム・ティーチング(実習補助等)

(3) 教育活動・学校行事等の実施状況

月	教育活動(■)	学校行事等(▲)
4	・オリエンテーション(ホームルーム/ 健康診断/歯科健診等) ・個人面談(中旬～下旬)	○入学式
5	・前期中間考査	○1年生スケート研修 ○校外研修(リトルワールド)
6		○夏季スポーツ大会[球技大会] △3年生進路説明会(+内部進学制度説明)
7	・前期期末考査 ・高等学校スクーリングⅠ ・地域ボランティア清掃活動 ◎資格・検定講座(含介護職員初任者研修) ※講座毎に1月まで継続 ◎保育園実習	○2年生熊野宿泊研修 △3年生進路三者懇談会 ◇体験入学会1
8	・教員研修(アクティブラーニング編)	◇体験入学会2
9	・特別校外研修(「専門学校をもっと知ろう」) ・3年生テーブルマナー講習	△前期末三者懇談会
10	・1年生救急救命講習	○文化祭(全校) ◇体験入学会3
11	・後期中間考査 ・校内研修(生活指導編)	○秋季スポーツ大会[体育祭] ◇体験入学会4
12	・高等学校スクーリングⅡ ・地域ボランティア清掃活動 ●前期終了科目追試及び補習	○体験入学会5・6
1	・3年生卒業考査	☆防災訓練Ⅰ(防災講話+避難訓練)
2	・学年末考査	◇推薦及び一般入試 ○芸術鑑賞会(宝塚観劇) ○2年生沖縄修学旅行
3	●学年末成績不振者追試+多欠者補習 ・収集エコキャップ納入 (ポリオワクチン支援) ・地域ボランティア清掃活動	○卒業式 △学年末三者懇談会 △学校評価アンケート実施(保護者+生徒)

■；◎=任意参加，●=当該生徒のみ

▲；○=教育活動領域，△=保護者連携領域，◇=広報(生徒募集)関係領域，☆=その他

2. 目標と達成計画(重点課題)の達成状況

(1) 退学率の低減

退学率5%以内を目標に、各学年の教員団で生徒の情報共有を重視し生徒指導を行った結果、2月末時点では退学率を4%以下に抑え、昨年度に比べてかなりの改善が見られた。しかし、3月に3名の退学者が発生したため、3月末時点の退学率は5.5%となり、わずかに目

標としていた5%以内を達成できなかった。

退学の原因は年々多極化しているものの、教員が協調して生徒指導にあたることにより、退学防止に一定の効果があったのではないかと考える。

(2) 入学定員の確保

受験者数100名、内入学者数80名以上(定員充足)を目標としていたが、受験者総数は82名(前年比5名減、特に推薦受験者が6名減)となり、合格者も79名で定員に届かなかった。併願受験者の公立高校への進学により、入学者数は63名(充足率約79%)となった。

(3) 教職員(専任教員及び専任職員)の目標の達成度合等に対する自己点検・評価結果

①教育方針・教育目標

評価項目	評価
教育方針・教育目標・育成人材像は定められているか (専修学校高等課程としての特性が明確になっているか)	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学校における職業教育(専門教養)分野の特色は何か	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学校の教育方針・教育目標・育成人材像・特色等が生徒・保護者に周知されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学科の目標や育成人材像が、地域社会のニーズに向けて正しく方向づけられているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

②学校運営

評価項目	評価
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化され、有効に機能しているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
教務・財務等の組織整備などのシステムは整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

③教育活動

評価項目	評価
教育理念に沿って教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学習到達レベルや学習時間の確保はされているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
教育(授業)方法に関して工夫・開発などが行われているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
インターンシップが体系的に位置づけられているか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

成績評価・単位認定・進級及び卒業判定の基準は明確か	4	・	3	・	2	・	1
資格取得や検定合格に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	・	3	・	2	・	1
人材育成目標達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	・	3	・	2	・	1
教職員のスキルアップのための研修が行われているか	4	・	3	・	2	・	1
就職率の向上が図られているか	4	・	3	・	2	・	1

④学習成果

評価項目	評価						
資格取得率・検定合格率の向上が図られているか	4	・	3	・	2	・	1
退学率の低減が図られているか	4	・	3	・	2	・	1

⑤生徒支援

評価項目	評価						
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	・	3	・	2	・	1
生徒相談に関する体制は整備されているか	4	・	3	・	2	・	1
生徒＝家庭に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	・	3	・	2	・	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	・	3	・	2	・	1
保護者と適切に連携しているか	4	・	3	・	2	・	1
卒業生への支援体制はあるか	4	・	3	・	2	・	1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4	・	3	・	2	・	1

⑥生徒募集

評価項目	評価						
生徒募集活動は適正に行われているか	4	・	3	・	2	・	1
生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	・	3	・	2	・	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	・	3	・	2	・	1

⑦財務

評価項目	評価						
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	・	3	・	2	・	1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	・	3	・	2	・	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	・	3	・	2	・	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	・	3	・	2	・	1

⑧法令等の遵守

評価項目	評価						
法令や専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	4	・	3	・	2	・	1

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	・	3	・	2	・	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	・	3	・	2	・	1
自己評価結果を公開しているか	4	・	3	・	2	・	1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	・	3	・	2	・	1

⑨その他

評価項目	評価						
防災に対する体制は整備されているか	4	・	3	・	2	・	1
生徒のボランティア活動を奨励・支援しているか	4	・	3	・	2	・	1

※評価が困難な項目については空欄のままとする。

事業報告にあたって

名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校
校長 中尾 聡

学校法人大橋学園は、昭和 14 年「ツルー洋裁学院」として開校し、「精和学園文化・ファッション専門学校（のち精和総合文化専門学校）として、女子の社会的自立のための職業教育を基盤として地域社会の発展に寄与してきた、精和学園を引き継ぎ、理事長である大橋正行が新たに「地域を支える次世代を社会に送り出す」を建学の精神として、平成 17 年（あいち大橋学園）に設置した名古屋ユマニテク 歯科医療専門学校 歯科衛生学科（のち名古屋ユマニテク 歯科製菓専門学校）は、開校から 12 年が経過した。平成 22 年に併設された製菓製パン本科も 7 年を経過し、地域の職業教育の一端を担っている。

建学の精神と、「豊かな人間性と確かな技術」という教育理念に基づき、より高いレベルの「技術教育」と「人間教育」に邁進してきました。

平成 26 年よりスタートさせた精和高等専修学校（平成 27 年 4 月：校名変更）との連携教育構想（5 ヶ年計画 3 年目）についての協議検討終了し、社会的ニーズや周辺状況の変化から方向性を軌道修正した。

従来の教育環境を最大限活用し、本校の使命を反映した特色のある教育展開と環境整備に着手する学校改編の計画立案の最終段階をまとめ、平成 31 年度を目標に、専門課程、高等課程を有機的に機能させるため大幅な改編を行うため、平成 30 年 1 月末、愛知県に精和高等専修学校の専門課程設置計画書を提出した。

同時に、平成 31 年の改編を念頭に、平成 30 年度人事組織編成を行う。（校長変更・準備室の設置等）

1. 教育方針

(1) 学生の現状と課題を踏まえたものとしては下記の通りとなる。

学校力（教職員が一丸となり、学生を指導支援する）⇒近年度の中では高い退学率であった昨年度と同様、今年度も退学率が高く（今年度 6.64%：昨年度 6.60%）なり、変わらず課題が残る年度となった。特に歯科衛生学科 1 年生の退学者数が 11 人（昨年は 15 人）となり、1 年生への指導に改善の必要性がさらに高まったと言える。

教師力（専門性を発揮し、分かる・身につく授業をする）国家試験については、製菓製パン本科が学科開設から初の 100%合格を達成し、これまでの取り組みが実を結んだ。歯科衛生学科においては 2 名が不合格となるものの、これまで同様高い合格率を維持している。なお、成績低位の学生に対する底上げ、試験対策において、早期の意識付け、計画的、段階的な指導を行うことにおいては非常に高い効果が得られている。

人間力（学生の豊かな人間性と社会性を養う）昨年同様、歯科衛生学科 臨床・臨地実習、製菓製パン本科 インターシップの指導、職業実践専門課程の取組みにより、早期の就職決定と、業

界・団体との連携による今後の定着を図る。以上の3つの力により、学生の自己実現と自立を目指すことができた。

(2) 教育活動は、常に学生を中心にP.D.C.A（計画、実践、評価、改善）により、創意を生かした改善活動を行うことができた。

(3) 学生・保護者や地域から信頼される学校、教職員を目指すために、両学科において、行事における地域との関りを深めこと、同様に保護者に対しても、行事を中心に学生の状況報告の機会を増やすことで、コミュニケーションを図ることができ、前年度に比べ保護者の延べ来校者は増加した。

2. 教育目的

本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、医療分野（歯科衛生学科）及び衛生分野（製菓製パン本科）の業界の需要に応え、また、更なる発展に貢献できるよう、本学の教育理念である豊かな人間性と確かな技術をもった有能な人材を育成することを目的とする。

上記目的のため、職業実践専門課程としての意味、意義の理解を教職員全体にさらに深め、浸透させていくことが必要である。

3. 自己点検・評価及び学校関係者評価の実施（評価対象事業年度：平成28年度）

専門学校等評価基準に基づき、学校教育活動その他の学校運営の状況について、自己点検・評価を実施しました。この自己点検・評価に基づき、さらに学校関係者評価委員によって課題や反省点、改善点等の検討を行い、教育水準の向上に、教職員一同、努力を傾けていく所存です。

また、職業実践専門課程の学校として、今後も引き続きこの結果を学校ホームページ等で情報公開を行う予定です。

(1) 自己点検・評価 平成29年10月23日

(2) 学校関係者評価 平成30年1月11日

※ 歯科衛生学科・製菓製パン本科：共通事業

歯科衛生学科

1. 教育方針

基礎科目を基盤として、歯科口腔衛生に関する高度な専門知識と技術を習得させる教育を目指す。また、学生が自らの目標に向かい学習意欲や態度を培うことが出来るよう学生自身の自立と人間力の構築を目指す。

2. 教育目的

- ① 高い使命感と倫理観を持った人間性豊かな医療人の育成
- ② 専門的知識と技術及び科学的な思考力を統合した実践力の育成
- ③ 医療人としてのコミュニケーション能力の育成

3. 事業概要

(1) 学生在籍数

平成30年3月31日現在

学年	学級数	定員数	現員数	備考
1年	2	80人	60人	
2年	2	80人	70人	
3年	2	80人	79人	
計	6	240人	209人	

(2) 平成29年度卒業生等の状況(平成30年3月31日現在)

卒業生	国家試験合格見込者	専門分野就業者予定	備考
79人	77人 (97.5%)	76人 (96.2%)	1名 進学(専攻科) 1名 専門分野外就業 1名 今後活動予定

(3) 学生支援

① クラス担任制による早期個人面談、保護者面談

- ・個人面談・・・1年生に対し学生が逸早く学校生活に馴染める様、早期に学生個々の生活、学習状況、環境を理解することを目的として、入学後4～5月にかけて担任教員との面談を行った。前期終了時までの退学者の低減は図ることが出来たが、後期が進むにつれて学習に付いていくことが出来ない、基礎実習が上手いかず自身の希望とは違っていたとして進路変更の学生も複数あった。その後面談を繰り返し行う中で、長期欠席の学生からも復学を決めて次年度に再履修を考える学生もあった。しかし、結果として全学年合計15名の退学者が出てしまった(昨年度は19名)。今後、担任教員だけでなく、複数の教員との関りの機会を更に設けていかななくてはならない事と、基礎実習で指導方法に検討を必要と知る。
- ・保護者面談・・・8～9月、2～3月(必要な場合は随時)に学生個々の状況に応じて、学科評価、生活状況についての理解をしていただく為に面談を行った。また、家庭との連携を図ることを目的として、僅かな気になるところがあれば速やかに連絡を取りその後の対応を共に考えるようにして来た。

② 国家試験対策の強化

3年生4月より、学外(業者主催)模擬試験を7回実施し、臨床実習期間中は分野別学内確認試験を繰り返すことで知識定着を目的に反復指導を行った。臨床実習終了後の11～12月には各講師による国家試験対策集中講座や総合基礎講座実施後は、国家試験に準じる形式の卒業試験で総合的な学習力の評価をし、のちは学習計画を個々に検討し、総括学習としている。

学習低迷者への対応は、4月からの学習状況により、担任、科目担当者が課題指示、面談を繰り返し行って基礎力のアップを目指した。12月以降は、学習優秀者が加わり、小グループで問題に取り組み、例年とは違う形式での対策を毎日繰り返したので、全体の学習レベルは底上げを図ることが出来たと感じる。ただ、個人の学習状況には幅があり、統一見解では理解できない学生が数名あった為、個々

への学習のフィードバックを担当教員を中心に根気よく行った。

③学生教育の充実を考慮した基礎実習室の有効活用

技術習得・定着のための実技訓練、試験は段階的に期間、内容項目を担当教員間で十分に検討を重ね、指導内容の共通を図った。ただ、各科目の実技実習の時期が重なり1年生の学生の中には優先順位を上手くつける事が出来ない学生もあった。1・2年生合同による相互実習や「歯科予防処置」と「歯科診療補助」をミックスした臨床現場を想定した総合実習、学生の自学訓練等は、現場実践対応力に繋がったと考えます。

(4) 社会貢献・地域貢献

①地域歯科保健活動

歯と口の衛生週間には、地域行政が開催した住民への様々なライフステージ(母子、成人、高齢者)に対する保健指導、歯科検診、フッ化物塗布、相談等の活動へ参加した。集団指導では、学生が作製した幼児期・学齢期に対する媒体を実施指導も行き、直接にコミュニケーションがとれたと考えます。また、各地域では他職種との連携や協働による住民対応を経験出来、地域活動の重要性を学び取ることが出来たと考えます。

■名古屋市(中村区、西区)「歯と口の一日健康センター」平成29年6月1日(木)

名古屋市(昭和区)「歯と口の一日健康センター」平成29年6月7日(木)

■大府市「おおぶWELL 噛む健康祭」平成29年5月21日(日)

■東海市「歯の無料健と相談 フッ素塗布」平成29年6月4日(日)

②職業認知啓蒙活動

口腔保健啓蒙を目的に職能団体主催のイベントに参加しました。

■東山動物園(千種区)の来場者対象のイベント 平成29年11月3日(祝)

■全国小学校歯みがき大会で名古屋市内小学校へ参加 平成29年6月1日(木)

■飛島村高齢者口腔機能調査へ参加 平成29年5月16日(火)17日(水)

6月21日(水)30日(金)

(5) 学生研修・臨床実習

①病院見学

学内で学んだ知識を専門領域ごとに施設・設備・患者様への対応等について院内見学を行った。専門性の高い現場での歯科衛生士の業務を見学し、この実習から900時間に及ぶ臨床実習が始まる。

■愛知学院大学歯学部附属病院見学実習 平成29年10月4日(水)・11日(水)

②臨床・臨地実習

3年生は4月21日(金)から11月1日(水)までの78日間(540時間)

2年生は11月6日(月)から2月23日(金)までの52日間(360時間)他、学外実習を行った。

■実習施設…歯科医院・診療所(55施設)、病院・医療センター(8施設)・幼稚園(2園)・高齢者施設(1施設)・口腔衛生センター(1施設)・小学校(3校)・支援学校(1校)

■臨床実習施設教育協議会 研修会含め開催 平成29年9月7日(木)

③海外研修

現地ハワイで活躍する日本とのダブルライセンスを持つ歯科衛生士より、アメリカの歯科医療事情セミナーの受講や今年度より医療現場(クリニックや保健施設)をグループごとに見学し、医療従事者ともディスカッション、レクチャーを受けることが出来たことは、歯科衛生士への目標構築に繋がったと思います。また、ハワイの文化、風土に触れ、グローバルな視野を養うことも出来たと思います。

■ハワイ研修旅行 平成29年11月12日(日)～17日(金)

(6)教職員研修

①教職員研修(学園主催)

■新人研修等への参加

学内では、学生の能動的学修法を活用した授業運営方法や学生指導法の研修へ教育関係者を招いて行った。

②教員研修・学会参加(専門技術研修)

歯科衛生学教育のカリキュラム構築の方法を技術、知識面に於いて研鑽し、学生教育に反映していく。

■歯科衛生士専任教員講習会 I, III, V, VI受講、研修会受講(全国歯科衛生士教育協議会)

■学術大会(日本歯科衛生教育学会)参加

■歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会 平成30年2月17・18日(土日)

(7)主な施設設備の整備実績及び機器の購入

当年度の主な整備概要及び機器の購入は以下の通りです。

整備内容	金額
実習機器(超音波スケーラー、バキューム装置他)修繕 ※発生都度	288千円
実習室・実験室 ユニット修繕	24千円
口腔機能管理シミュレーター「MANABOT」頭部・咽頭部ハーフタイプ	311千円
計	623千円

※金額:千円未満四捨五入表記

4. その他

(1)職業実践専門課程 関連について

①自己点検・自己評価

平成29年10月23日に実施(全教職員を対象として)

②教育課程編成委員会(年間2回開催)

平成29年11月30日(木)、平成30年3月8日(木)に実施

③学校関係者評価委員会(年間1回開催)

平成30年1月11日(木)に実施

製菓製パン本科

1. 教育方針

学生の現状と課題をふまえ、学校力(教職員が一丸となり、学生を指導支援する)、教師力(専門性を発揮し、分かる・身につく授業をする)、人間力(学生の豊かな人間性と社会性を養う)の3つの力により、学生の自己実現と自立を目指す。

2. 教育目的

「豊かな人間性と確かな技術」を兼ね備えた専門職業人(パティシエ、ブーランジェ、和菓子職人等)を養成することを目的とする。

3. 事業概要

(1) 学生在籍数

平成30年3月31日現在

学年	学級数	定員数	現員数	備考
1年	2	80人	65人	
2年	2	80人	61人	
計	4	160人	126人	

(2) 平成29年度卒業生等の状況(平成30年3月31日現在)

卒業生	国家試験合格者	専門分野就業者	備考
61人	61/61人 (100%)	55人 (90.2%)	1名進学、1名分野外、4名内定辞退等

(3) 学生支援(学生の人材育成像に基づいた取り組みの強化)

「人間性指導」「技術指導」「資格取得指導」を卒業時の全学生に対する到達目標として指導にあたり、本学科卒業生は、この点は確実であると自他ともに自信をもって認めることができる教育を目指して取り組みました。

①クラス担任制による早期個人面談、保護者面談

近年の学生は価値観や志向が多様化しているため、画一的な指導では対応が不十分となるため、定期的に、また状況に応じて「個別」面談を行い、一人ひとりの個性を伸ばす指導を重視しています。

また、学生の進路選択は、保護者の意向が反映される要素もあり、特に「就業先」は、学生と保護者との意向が異なるケースが増えてきているため、保護者会を開催や、保護者との「個別」面談を行い、就業先の業界理解を促進し、学生にとってより良い進路決定に繋がるように取り組んでいます。

②国家試験対策の強化(教科目授業の充実、リカレント講習、課外授業)

本学科は、国家資格である製菓衛生師の在学中取得に有効なカリキュラムを編成していますが、平常時より、授業教科目に対する学生の理解度を計るための定期小テストとその結果に応じた反復補習(課外)を徹底することで基礎力養成を支援し、8月には国家試験対策講座を開講して国家試験対策の強化に努めています。また、愛知県のみならず、他府県実施の国家試験も

積極的に受験することを勧め、希望者には個別指導も実施することで高い合格率へと繋がりました。

③将来像と目的の具現化

製菓製パン業界での活躍を目指して入学する学生は、活躍「したい」業界は明確でも、「具体的な将来像」を明確にできないまま時間が経過してしまうことも少なくありません。

本学科は、業界の諸先輩方の話を聞き、質問できる機会を積極的に作り将来像の具現化を進めております。また、卒業生によって構成されるユマニテクススイーツ同窓会総会が本校を会場として実施されていることを機に、卒業生たちに様々な質問をできる機会を設けています。学外研修として、一般社団法人愛知県洋菓子協会主催の学生向け研修会への参加、インターンシップを2年生の4月に実施することによる就職活動への意識付けなど、卒業生の活躍こそが在校生への見本や目標になるということを重要な点と位置付けています。学生の長期休業期間には、実店舗見学(レポート提出)を課題として設定し、学生同士で話し合い、クラス担任の教員と共有しながら、学生の将来像と目的の具現化に対する促進支援に努めています。

(4) 社会貢献・地域貢献(学科祭等行事開催による地域交流)

①「セイカ(製菓)展」 平成29年10月28日、29日

学生の日頃の学習と技術習得の“成果”とお菓子の“製菓”をかけあわせ、例年、学科祭として「セイカ展」を開催しています。地域貢献の一環として、開放した校舎内で洋菓子・和菓子・パンの販売提供や来場者に対するお菓子作りの体験実習などを行い、本学及び本学科の教育活動への理解を深めていただく機会としています。

②「保護者感謝会」 平成30年2月17日

1年間の集大成として、日頃より支え続けている保護者への披露と感謝をこめて実施。2年生は自らの保護者と1年生に対して製品を提供し、保護者への感謝と在学生へのエールを込めて取り組みます。

社会人として活躍をするそのスタートを切る前に、これまで支えて頂いた保護者を始めとするご家族を方々に感謝の気持ちを伝える機会として実施。

本学の理念である「確かな技術」を製品に込め、「豊かな人間性」を感謝の気持ち、ありがとうの言葉を伝えられる人間的に成長した学生の育成を狙いとしています。

(5) 学生研修及び技術コンテスト、インターンシップ等

①中部洋菓子技術コンテスト 平成29年8月23日

東海地区の専門学校生や洋菓子店の職人が集まり、技術を競い合う年1回開催のコンテスト大会例年、本校に東海三県の職人や学生が集まり、大会が行われます。

マジパン部門:学生の部

本学科2年生は多数の学生が入賞

②東京研修 平成29年10月16日、17日

一日目はコンテストの全国大会である「ジャパンケーキショー」を見学し、様々なレベルの高い作品を見ることで感性を養い、二日目は、国内の情報発信都市である東京で流行している洋菓子店やパン屋などの実店舗を見学しました。

③国内研修 平成29年11月20日～11月22日

フランス研修の治安不安による渡航中止に伴い、研修内容を海外研修ではなく国内研修へ変更。

東のメッカである東京とは対極にある、大阪、兵庫、京都、滋賀という和・洋・パンの先進地域を訪問し、本学科の指導方針にある3分野すべてにおいて研修を実施致しました。

④インターンシップ 平成29年4月12日～25日

2年生の5月頃からの本格的に就職活動に備え、製造現場や販売現場での実習(労働体験)を行うことで、より就職活動への意識を高め、就業先選択のミスマッチを無くすことを目的に実施しています。

(6)教職員研修

①教員研修

学校内での学生への指導が主な業務であるため、現場のトレンドや流行、最先端の技術に疎くなりがちです。常に新しい技術や知識、トレンドを理解することで学生への指導力を上げることを目的として、外部開催の技術講習や講演会などに参加しています。また、学内においても、教育関係者を招いて進路指導方法の講習会などを行いました。

②教職員研修(学園主催)

新人マナー研修、教育関係者を招いての講演・研修、学校法人会計研修等に参加。

(7)主な施設設備の整備実績

当年度の主な整備概要は以下の通りです。

整備内容	金額
施設内補修営繕工事(IH、冷凍庫修理等を含む)	145千円
計	145千円

※金額:千円未満四捨五入表記

4、その他

(1)職業実践専門課程 関連について

①自己点検・自己評価

平成29年10月23日に実施(全教職員を対象として)

②教育課程編成委員会(年間2回開催)

平成29年11月10日(金)、平成30年2月20日(火)に実施

③学校関係者評価委員会(年間1回開催)

平成30年1月11日(木)に実施

<別紙1>

在籍者・卒業者・退学者・休学者・中退率・留年者数一覧

(平成25年度～29年度の設置学科等について)

① 在籍者数 (各年5月1日現在)

学科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
歯科衛生学科	239	236	239	246	226
製菓製パン本科	155	128	133	146	131

② 卒業者数

学科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
歯科衛生学科	71	77	73	74	79
製菓製パン本科	72	67	50	76	61

③ 退学者数

学科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
歯科衛生学科	14	7	8	19	15
製菓製パン本科	14	8	6	8	5

④ 休学者数

学科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
歯科衛生学科	3	3	1	1	1 (のちに退学)
製菓製パン本科	0	0	1	1	0

⑤ 中退率

学科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
歯科衛生学科	5.86%	2.97%	3.35%	7.72%	6.64
製菓製パン本科	9.03%	6.25%	4.51%	5.48%	3.82

<別紙2>

求人者数・就職者数・進学者数・国家試験受験関連一覧

(平成25年度～29年度の設置学科等について)

① 求人者数

学科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
歯科衛生学科	1093	1200	1170	1300	1348
製菓製パン本科	716	555	970	1249	1271

② 就職者数

学科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
歯科衛生学科	70	76	72	74	74
製菓製パン本科	68	65	46	76	56

③ 進学者数

学科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
歯科衛生学科	0	1	1	0	1
製菓製パン本科	1	1	0	1	1

<国家試験関連>

① 受験者数（在籍学生数）

学科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
歯科衛生学科	71	77	74	74	79
製菓製パン本科	73	67	52	76	61

② 合格者数

学科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
歯科衛生学科	71	77	74	73	77
製菓製パン本科	62	47	48	75	61

③ 合格率（%）

学科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
歯科衛生学科	100	100	100	98.6	97.5
製菓製パン本科	84.9	70.1	92.3	98.7	100

<別紙3>

平成29年度 就職先一覧

<歯科衛生学科>

●病院

医療法人大雄会 総合大雄会病院

名古屋大学医学部付属病院、稲沢市民病院

●歯科医院等

医療法人ナディアパークデンタルクリニック、神谷歯科医院、こじまデンタルクリニック

荻須デンタルクリニック、ささ歯科クリニック、安部歯科医院、すずらん歯科矯正歯科

福岡歯科医院、名古屋デンタルオフィス、名古屋デンタルオフィス、浅岡歯科医院

堀田歯科、キララ歯科、めいよん歯科、林ファミリー歯科、カナル歯科クリニック

CBS インプラントセンター大井歯科、はなのき歯科、おけはざま歯科クリニック

新飯塚いとう歯科クリニック、みんなの歯医者さん、亀井歯科、なかはら歯科クリニック

まなべ歯科クリニック、医療法人 H&S 松年歯科クリニック、すずらん歯科矯正歯科、阿部歯科医院

みわ歯科、岡崎歯科医院、医療法人真幸会 わたなべ歯科医院、大矢歯科、オレンジ歯科

ただこし歯科クリニック、松下歯科医院、医療法人スマイル 関歯科医院、医療法人真稜会 I Dental

Clinic、山口歯科医院、デンタルオフィス自由が丘、岡崎デンタルオフィス、小島歯科、みなみ大

高歯科・矯正歯科クリニック、平岡歯科医院、医療法人 LIFE 市之倉たまおき歯科、

長久手ファミリー歯科、いずみ歯科クリニック、デンタルオフィスケイ、アール歯科庄内通、

中原歯科医院、歯科サンセール、医療法人スマイル 関歯科医院、かけまちコミュニティー歯科、ユー歯科、おかだ歯科こども歯科、山田歯科、医療法人 LIFE 市之倉たまおき歯科、ともデンタルルーム、名古屋駅前矯正歯科、かなや歯科医院、稲沢市民病院、刈谷駅ミナミデンタルクリニック、医療法人 スワン会グループ ゲートタワースワン歯科・矯正歯科、うしきデンタルクリニック 服部歯科医院、鈴木歯科医院

<製菓製パン本科>

●洋菓子店

有限会社コンディトライベール、TAKIMOTO、有限会社フィレンツェ、イオリカフェ名鉄百貨店 パティスリーサリュール、プチフリーズ、パティスリー ピエール・プレシュウズ クール・ド・ボルドー、有限会社タンブラン、株式会社アールアンドエイ インターナショナルナゴヤドウドボワ、有限会社カレット洋菓子店、森のケーキ屋 クリム、シンシア、樹の花、siegfrieda (ジークフリーダ)、(有)マリエ・ドゥ・ヒロ、BelCanto、patisserie Lazry、パティスリー・エ・カフェ グランディール、パティスリーHONDA、有限会社野うさぎ、ナチュラル、プチローズ株式会社 シترونヴェール、エルフラット、ケーキ工房 中川ベーカリー、パティスリー ヴィヴィエンヌ Sweets homare、有限会社ル・スリジェダムール、株式会社ハーブスグローイング

●パン工房

有限会社ポンレヴェック、曾木のベーカリーKattan、シャルムベーカリー ポンシェ、SURIPU しあわせをはこぶパン、緑と風のダーシェンカ 幸田本店、マエジマ製パン、Bakery Cafe 151@ ブーランジェール ルコパン、株式会社 ZOPF、ブーランジェリークラックマン、有限会社パンミー

●和菓子店

株式会社ハラキン

●カフェ

株式会社スイートスタイル、株式会社港屋珈琲、Cafe Downey JRゲートタワー店

●その他 (ブライダル等)

株式会社プラス、株式会社エルフラット、(株)ホロニック

平成 29 年度 ユマニテク短期大学 事業報告

1. 建学の精神

「地域を支える次世代を社会に送り出す」

2. 教育理念

「豊かな人間性と確かな技術」

3. めざす人間像

「豊かな人間性」を身につけていること。

「確かな技術を」を身につけていること。

4. 3つのポリシー

①ディプロマポリシー（学位授与方針）

- 本学での学びの中で「幼児教育者・保育者として必要な使命感と倫理観と教養」「幼児教育・保育」に対する知識・技能」「変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応できる実践的指導力」を身につけていること。
- 幼稚園教諭二種免許状

②カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

- 幼稚園教諭・保育士としての実践的指導力を有する専門職の養成
- コミュニケーション能力を有する専門職
- 地域のニーズを理解し、地域に根差す能力を有する専門職

③アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

- 高等学校までの学びがしっかり修められている人
- 他者との円滑なコミュニケーションが可能で、自らの意志を明確に表現できる人
- 幼児教育・保育に従事するという、強靱な意志と志向性を持っている人
- 自ら主体的に課題設定が可能で、その課題に前向きに持続的に取り組んでいこうという意志を持つ人

5. 事業概要

(1) 学生在籍数

平成 29 年 5 月 1 日現在

学年	定員数	現員数	備考
1 年	100 人	31 人	
計	100 人	31 人	

開学初年度の入学者数は定員を大きく割り込み 31 名であった。

(2) 学生募集活動

H30 年度生を迎えるための学生募集活動を、3 月から学生支援課の入学相談係を中心に行った。入試広報委員会を 24 回開催し、その決定に基づき高校訪問、校内・会場ガイダンス、オープンキャンパス、その他学生募集に尽力した。各活動詳細については、下記に記す。

①入試

- ・入試区分別では、55 名の入学者中 AO 入試 32 名、指定校推薦入試 19 名、内部推薦進学入試 4 名であった。
- ・地域別入学者数は下記表 1 の通りとなった。 [表 1]

地域	市郡	入学者数
北勢	桑名、いなべ、四日市	21
中勢	鈴鹿、亀山、津、松阪	16
南勢	伊勢、志摩	9
伊賀	上野、名張	4
東紀州	尾鷲、熊野	4
県外（愛知）	西尾張	1
合計		55

また、男女別では男性 13 名 (24%)、女性 42 名 (76%) であった。

なお、55 名の入学予定者中、高校からの入学者は 49 名、既卒者は 6 名、という結果であった。

②奨学金該当者

- ・H30 年度入試において、奨学金制度を充実させた。

本学独自の奨学金制度該当者は表 2 の通りである。 [表 2]

奨学金額 種別	一般奨学金		学園内奨学金		特別奨学金	
	125,000 円	250,000 円	70,000 円	150,000 円	400,000	250,000
AO 入試	4	3				
指定校推薦入試	10	4				
内部推薦進学			1	1		
奨学金選考試験					1	2
合計	14	7	1	1	1	2

※この他内部推薦進学入試で受験した 4 名は入学金 250,000 円と検定料 30,000 円の減免制度に該当

③オープンキャンパス

[表 3]

◆2017年度オープンキャンパス動員数								
開催数	開催日	高3	高2	高1	既卒	保護者	その他	合計
第1回	3月25日	1	32	12	0	8	16	69
第2回	5月13日	7	4	0	0	2	1	14
第3回	6月18日	51	7	0	2	8	0	68
第4回	7月8日	32	6	0	1	12	2	53
第5回	7月23日	39	12	1	1	10	0	63
第6回	8月8日	33	17	6	2	9	7	74
第7回	8月25日	16	28	7	4	9	6	70
第8回	9月30日	11	7	0	1	7	0	26
第9回	10月28日	4	1	0	2	2	0	9
第10回	11月25日	2	5	2	0	4	0	13
第11回	1月20日	0	5	0	0	2	1	8
合計		196	124	28	13	73	33	467

オープンキャンパス実施回数は、上記〔表3〕の表のとおり、全11回にて、1月末時点での動員人数は467名であった（平成28年度244名）。他大学・短大より比較的多く回数を実施し、内容も充実したものを心がけた。高校3年生と既卒者の延べ人数は203名（実人数135名）であった。

③会場、校内ガイダンス

平成30年3月末現在にて、会場ガイダンスは26回、校内ガイダンスは80回であった。延べ着席・参加人数は878名、名簿獲得数は569名を数えた。入学予定者数55名と仮定すると、獲得名簿数の約1割の入学率となっている。

(3) 学生支援関連

月1回の学生支援委員会を開催して情報の共有につとめた。今年度は開学年度でもあるために主に環境整備を進め、以下の事業を実施した。

① 学生ハンドブック

学生ハンドブック「学生便覧」「シラバス」「実習の手引き」の三部構成を作成した。学生生活に必要なあらゆる情報を網羅した学生必携の冊子とし、オリエンテーションで学生、教職員(非常勤)へ配布した。

②学外研修

実施日：平成29年9月26日(火)

参加者：学生 21 名、教職員 14 名

学生の目的意識及び主体性の向上かつ学生と教職員相互の親睦を図ることを目的として、学外研修をナガシマリゾートで実施した。学生による学生会・サークルの紹介等も行われ、学生と教職員の親睦を深め有意義な 1 日であった。

③保護者会

実施日：平成 29 年 9 月 30 日(土)

参加者：保護者 8 名

保護者に教育方針の理解を深めてもらう事と、保護者と意見交換をすることでより深い関係を構築することを目的として実施した。

④避難訓練

実施日：平成 29 年 10 月 10 日(火)

保育者を目指す者としてあらゆる状況でも臨機応変に対応し安全な非難行動をとれることを目的として、今年度は火災が発生した想定で避難訓練を実施した。

⑤学生会主催クリスマス会

実施日：平成 29 年 12 月 18 日(月)

学生の主体的活動を目的として、クリスマスコンサートやレクリエーション活動を行った。平成 30 年度は学園祭を計画しているので今年度は予行としてクリスマス会を実施した。

⑥就職試験対策講座

実施日：平成 29 年 11 月 10 日～平成 30 年 2 月 2 日（10 回）

参加者：12 名

学生の希望に沿った進路サポートを目的として、公務員希望の学生を対象とした対策講座を実施した。受験指導の実績のある外部講師に教養講座を依頼し、学生は独学では難しい「問題の解き方」のポイント等を学んだ。

⑦研修会の参加

教職員の資質向上を目的として、外部研修に参加した。

- 1) 平成 29 年 8 月 3・4 日：日本学生支援機構主催「心の問題と成長支援ワークショップ」
- 2) 平成 29 年 8 月 25 日：三重学生就職連絡協議会主催「障がい学生(発達障害)の就職支援」
- 3) 平成 29 年 12 月 7 日：三重県主催「インターンシップ推進フォーラム」
- 4) 平成 29 年 12 月 11 日：三重県経営者協会主催「働き方改革推進の為、起業側の学生に対する効果的な対応の仕方」
- 5) 平成 29 年 12 月 15 日：三重大学主催「障がい学生支援セミナー」

⑧その他

- ・サークル届け

4 団体からサークル届けが提出され活動を開始した。

バスケットボール、#HJCラボ、軽音楽サークル、ミックスサークル

- ・意見箱の設置

学生生活の向上を目的として、2階学生ホールに設置した意見箱には29件の要望があった。その都度対応策を学生ホールに掲示をして学生の満足度の向上につなげることができた。

- ・ウェルネスチェック

学生の健康状態等の把握を目的として、6月にウェルネスチェックを実施した。

- ・個人面談

小規模校ならではのきめ細やかな進路支援に取り組むことを目的として、7月に個人面談を実施し早期から進路支援を始めた。

（４）教務関連

① FD・SD研修会の実施

平成29年7月18日、ユマニテク短期大学内において、本学鈴木建生副学長を講師として、「アクティブラーニングの基礎について学ぶ」ことを目的としたFD研修会を実施した。本学の教員全員が参加した。

平成30年2月20日、ユマニテク短期大学大講義室において、世田谷区発達相談・療育センター「げんき」・名古屋経済大学名誉教授伊藤健次氏を講師に招き、「高等教育における発達障害への合理的配慮」をテーマに研修会を実施した。本学の教職員21名、みえ法人・あいち法人の教職員30名計51名が参加した。（添付ファイル参照）

② 教員免許状更新講習

平成29年12月9日・10日・16日・17日・23日各日6時間計30時間、ユマニテク短期大学内講義室にて本学の教員12名により教員免許状更新講習が行われた。受講者は各日17名、16名、19名、19名、19名の延べ74名であった。事後評価結果では、「よい」「だいたいよい」の数値で100%の評価であった。

③ 非常勤講師懇談会の実施

平成29年9月19日ユマニテク短期大学内において、効果的な学修のあり方を考えるため、本学における学生への教育的指導について専任教員と非常勤講師とで意見交換を行った。教職員30名（内非常勤講師11名）が参加した。

④ 学生による授業評価アンケートの実施

全講座・全学生を対象に前期・後期・集中授業終了時にマークシート方式による授業評価アンケートを実施した。各教員に集計結果を配布した。

(5) 図書館関連

①公開講座

H29年11月11日、H30年1月13日、2月10日の3回開催した。(添付ファイル参照)

	テーマ	講師	参加人数(スタッフ含む)
11/11	開学記念講座「四日市市の産業観光について」	須田 寛 氏 (JR 東海相談 役)	60名
1/13	「保育における遊びの考え方と実践」	渡邊 明宏先生 (本学助教)	18名
2/10	「北欧の子育て支援のエッセンス」	伊藤 喬治先生 (本学助教)	17名

②利用状況等

平成29年4月1日～平成30年3月30日(暫定)

項目	平成29年度	備考
1.サービス対象者(学内)	77人	教職員:46名 学生:31名
2.開館日数	203日	土日祝、夏季・冬季学校休校日、蔵書点検等休館
3.入館者数	584人	
4.貸出冊数	617冊	
5.レファレンスサービス	6件	所蔵調査5、書誌調査1、
6.文献複写依頼サービス	11件	
7.蔵書数	8,724冊	寄贈図書732、研究費図書197、視聴覚資料213、電子書籍568含む
8.受入れ冊数	2,381冊	寄贈732+研究費197+設置経費図書1,452
9.除籍数	0冊	
10.雑誌、新聞数	64冊	新聞1紙(研究費購入2種含む)

③外部への発信

- ・平成29年度図書館活性化推進事業助成金交付申請に応募したが、不採択となった。
- ・地域の小学生に図書館開放(夏休み中の特定日)をした。3名の利用があった。

④紀要の発行

- ・幼児教育文化研究紀要(第3号)2018.1.31発行した。
- ・ユマニテク短期大学紀要(創刊号)2018.3.1発行した。

⑤設置申請開設年度分の図書受入作業を行った。

⑥蔵書点検を2回行った。

(6) 事務局関連

①FD・SD研修実績

FD研修6回、SD研修11回開催。詳細は添付資料に記載。

今年度取り組んだFD・SD研修会について、別紙でまとめた。

H29年5月8日の研修会からH30年2月26日までFD研修は6回、SD研修は11回行った。

②奨学金支出

今年度の奨学金支出については、短期大学設置準備室が制度化した奨学金規程に則り、下記の通り支出した。

奨学金種類	人数	金額	合計
特待A奨学金	1	400,000	400,000
一般奨学金	4	100,000	400,000
AO初年度限定奨学金	10	100,000	1,000,000
公募推薦初年度限定奨学金	1	100,000	100,000
内部推薦進学入学金	4	250,000	1,000,000
内部推薦進学奨学金1種	2	150,000	300,000
内部推薦進学奨学金2種	2	70,000	140,000
内部推薦進学検定料 (H30年度生)	4	30,000	120,000
合 計			3,460,000

④ キャリア教育フォーラム (添付ファイル参照)

テーマ:

「キャリア教育の視点から資質・能力を高める授業改革を考える。あなたは授業をどう変えますか。」

日 時 : 2017年8月11日(金) 13:00~18:00

主催・会場: ユマニテク短期大学

参加人数 : 県内外の小学校・中学校・高校・大学、キャリア教育担当教員等 118名

後 援 : 三重県教育委員会・四日市市教育委員会他

<趣旨>

- ・三重県の小学校・中学校・高校教員等に研修の場を提供することによって地域社会の発展に貢献する。
- ・2020年の次期学習指導要領の実施に向けて、キャリア教育の視点から授業改革を支援していく。
- ・幼児教育・保育についての知識と情報を提供し、長期的な視野に立った地域創生活動の一環とする。

<プログラム>

I. 基調講演：「キャリア教育の視点から授業改革を考える」

講師：リクルート キャリアガイダンス 元・編集長 角田 浩子氏

II. 研修会内容：3人グループによるジグソー体験授業 45分 3つの専門分野に分かれて受講

講座A:堀 建治「次期学習指導要領と幼児教育保育」ユマニテク短期大学 教授 幼児保育学科長

講座B:織田 泰幸「学校組織開発とカリキュラムマネジメント」 三重大学 教育学部 准教授

講座C:水野 正朗「協同学習と授業改革」 東海学園大学 スポーツ健康科学部 准教授

III. 総括講演：「学校全体を通しての授業改革」

溝上慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター教授

<成果と課題>

成果としては高等教育機関として地域貢献という目的をわずかではあるが果たせた。小中高とのキャリア教育の連携としての授業改善という視点を提示できた。また、研修内容の企画をどう深めていくか。地域のキャリア教育の拠点としてさらに充実を図るために、計画的・継続的・系統的に取り組むことが今後の課題である。

⑤ 各種団体へ加盟

それぞれの団体が主催する総会、研修会、会議等に事務局員が出席をした。加盟費用は100万円以上になるが、次年度も継続予定でいる。

	団体名	金額 (千円)
H29	日本私立短期大学協会	170
	中部地区私立短期大学協会	3
	一般社団法人短期大学基準協会	78
	一般社団法人全国保育士養成協議会	170
	私立短期大学図書館協議会	15
	三重県保育士養成連絡協議会	20
	三重県図書館協会	12
	高等教育コンソーシアムみえ	35
	三重県レクレーション協会	10
	三重県私立大学入試・広報連絡協議会	36
	私学経営研究会	200
	公益財団法人私立大学退職金財団	125
	日本学術振興会	200
	合計	1,074

⑥ 事務局員による校舎内清掃

校舎内トイレ清掃については、外部業者に週1回（3時間）依頼し汚れが目立つ場合は職員が行った。（職員は、1週間ごとに場所を変更）

校舎内のトイレ以外の清掃については、職員10人で分担して週に一回程度授業を確認しながら行った。図書館と玄関ホールは、図書館司書（辻）が担当し、教室・廊下等（体育館、キャリア支援室・講師控室、図工室、保育実習室、音楽室、ピアノレッスン室を除く）については、他9人で下記のように分けし1週間ごとに場所を変更し行った。

掃除場所	
①	1階学生ホール、1～3階南側階段
②	2階会議室・応接室・印刷室、2階廊下一部
③	2階学生ホール、2階廊下一部
④	3階学科事務室、3階廊下、1～3階北側階段
⑤	4階情報処理演習室（407）、406講義室
⑥	4階402講義室、4階廊下、4階ロッカーコーナー
⑦	4階403講義室、404講義室、405講義室
⑧	5階501大講義室、5階廊下
⑨	4～5階北側階段・南側階段
※順番 ①→②→③→④→⑤→⑧→⑥→⑨→⑦	

⑥ 履行状況報告

H29年5月に「設置に係わる設置計画履行状況報告書」を文部科学省に提出した。また「大学設置に係わる寄附行為（変更）認可後の財政状況及び施設等整備計画の履行状況報告書」をH29年9月に提出した。その結果、H30年2月末に全国の大学、短期大学の設置計画履行状況調査の結果（H29年度）が文部科学省から公表された。本学の改善事項は、①定員充足率0.7倍未満のため学生確保に努めよ。

②定年規程に定める専任教員の年齢が高いので、適切な運用に努めよ。の2点であった。

以上

Ⅲ. 施設等の状況

施設(土地・建物)の状況は以下の通りです。

1. 土地

種別	所在地	地番	面積〔㎡〕	備考
校舎 敷地	三重県四日市市 南浜田町	13番	2,373.91	※
	愛知県名古屋市中村区 名駅二丁目	3302番1	831.25	名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校
	愛知県名古屋市中村区 亀島二丁目	605番	484.92	名古屋ユマニテク歯科製菓専門学校 精和高等専修学校
	愛知県名古屋市中村区 亀島二丁目	604番	145.11	
	小計			3,835.19
山林	岐阜県郡上市高鷲町鷲見 字上野	5189番47	991.00	運用財産
合計			4,826.19	

2. 建物

種別	所在地	構造	延床面積〔㎡〕	備考
校舎	三重県四日市市 南浜田町13番地	鉄筋コンクリート造 陸屋根5階建	3,702.39	※
	愛知県名古屋市中村区 名駅二丁目3302番地1	鉄骨・鉄筋コンクリート造 陸屋根地下1階付8階建	3,317.35	
	愛知県名古屋市中村区 亀島二丁目605番地、604番地	鉄骨・鉄筋コンクリート造 陸屋根7階建	2,517.83	
合計			9,537.57	

※ユマニテク短期大学(平成29年4月開学)

校舎延床面積 3,702.39㎡ (内. 校舎面積3,194.79㎡ 内. 校舎内体育館面積507.60㎡)

IV. 財務の概要 —平成29(2017)年度 決算の概要—

1. 資金収支計算書

資金収支計算書は、平成29年度会計の教育事業活動等に附随する全ての収入と支出の内容、ならびに当該会計年度における資金の収入と支出の状況と支払資金(現預金)の顛末を明示したものです。収入の部は「当期収入＋前年度繰越支払資金＝収入の部合計」、支出の部は「当期支出＋次年度繰越支払資金＝支出の部合計」で、収入の部合計と支出の部合計は一致します。

当年度の収入の部合計は前年度繰越支払資金を含めて1,759,344,958円、支出の部合計は次年度繰越支払資金1,165,382,033円を含めて、収入の部合計と一致する1,759,344,958円となっています。

資 金 収 支 計 算 書

平成29年4月 1日から
平成30年3月31日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	549,420,000	563,905,700	△ 14,485,700
手数料収入	9,955,000	7,649,570	2,305,430
寄付金収入	17,100,000	17,200,000	△ 100,000
補助金収入	43,251,000	43,467,800	△ 216,800
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	9,115,000	11,610,013	△ 2,495,013
受取利息・配当金収入	145,000	70,088	74,912
雑収入	16,380,000	15,854,630	525,370
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	322,348,000	305,925,680	100,207,500
その他の収入	3,111,936	5,774,335	△ 2,662,399
資金収入調整勘定	△ 287,126,500	△ 286,425,500	701,000
前年度繰越支払資金	1,074,312,642	1,074,312,642	
収入の部合計	1,758,012,078	1,759,344,958	△ 1,332,880
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	388,250,000	368,373,995	19,876,005
教育研究経費支出	125,723,000	116,596,480	9,126,520
管理経費支出	95,477,000	86,875,133	8,601,867
借入金等利息支出	2,000,000	1,744,647	255,353
借入金等返済支出	26,662,000	26,662,000	0
施設関係支出	2,376,000	2,376,000	0
設備関係支出	4,019,000	4,042,432	△ 23,432
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	16,500,000	17,296,024	△ 796,024
[予備費]	(3,400,000)		
	8,100,000		8,100,000
資金支出調整勘定	△ 20,871,418	△ 30,003,786	9,132,368
翌年度繰越支払資金	1,109,776,496	1,165,382,033	△ 55,605,537
支出の部合計	1,758,012,078	1,759,344,958	△ 1,332,880

2. 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書

平成29年4月 1日から
平成30年3月31日まで

(単位:円)

		科 目	金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	563,905,700
		手数料収入	7,649,570
		特別寄付金収入	17,000,000
		一般寄付金収入	200,000
		経常費等補助金収入	43,467,800
		付随事業収入	11,610,013
		雑収入	15,854,630
		教育活動資金収入計	659,687,713
	支出	人件費支出	368,373,995
		教育研究経費支出	116,596,480
		管理経費支出	86,875,133
		教育活動資金支出計	571,845,608
		差引	87,842,105
	調整勘定等	35,954,529	
	教育活動資金収支差額	123,796,634	
施設整備等活動による資金収支	科 目		金額
	収入	施設整備等活動資金収入計	0
	支出	施設関係支出	2,376,000
		設備関係支出	4,042,432
		施設整備等活動資金支出計	6,418,432
		差引	△ 6,418,432
		調整勘定等	138,132
	施設整備等活動資金収支差額	△ 6,280,300	
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			117,516,334
その他の活動による資金収支	科 目		金額
	収入	仮払金回収収入	104,200
		差入保証金回収収入	111,084
		預り金受入収入	2,447,115
		小計	2,662,399
		受取利息・配当金収入	70,088
		その他の活動資金収入計	2,732,487
	支出	借入金等返済支出	26,662,000
		修学旅行預り金支払支出	772,783
		小計	27,434,783
		借入金等利息支出	1,744,647
		その他の活動資金支出計	29,179,430
		差引	△ 26,446,943
	調整勘定等	0	
	その他の活動資金収支差額	△ 26,446,943	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			91,069,391
前年度繰越支払資金			1,074,312,642
翌年度繰越支払資金			1,165,382,033

3. 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、企業会計でいえば損益計算書に相当し、事業活動収支の内容と均衡状態を明示したものです。特殊性を除いた企業会計や一般的な損益収支差額に相当するのは、経常収支差額に特別収支差額を加えた基本金組入前当年度収支差額にあたり、当年度は4,625,704円となっています。

事業活動収支計算書

平成29年4月 1日から
平成30年3月31日まで

(単位:円)

		科目	予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	549,420,000	563,905,700	△ 14,485,700
		手数料	9,955,000	7,649,570	2,305,430
		寄付金	17,100,000	17,200,000	△ 100,000
		経常費等補助金	43,251,000	43,467,800	△ 216,800
		付随事業収入	9,115,000	11,935,442	△ 2,820,442
		雑収入	16,380,000	15,854,630	525,370
		教育活動収入計	645,221,000	660,013,142	△ 14,792,142
		科目	予算	決算	差異
	事業活動支出の部	人件費	389,300,000	369,414,827	19,885,173
		教育研究経費	201,172,000	192,026,273	9,145,727
		内. 減価償却額	75,449,000	75,429,793	19,207
		管理経費	102,955,000	94,301,575	8,653,425
		内. 減価償却額	7,478,000	7,457,943	20,057
		徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計		693,427,000	655,742,675	37,684,325	
教育活動収支差額		△ 48,206,000	4,270,467	△ 52,476,467	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	145,000	70,088	74,912
		その他教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	145,000	70,088	74,912	
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	2,000,000	1,744,647	255,353
		その他教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	2,000,000	1,744,647	255,353
	教育活動外収支差額		△ 1,855,000	△ 1,674,559	△ 180,441
	経常収支差額		△ 50,061,000	2,595,908	△ 52,656,908
特別収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	853,580	2,029,796	△ 1,176,216
	特別収入計	853,580	2,029,796	△ 1,176,216	
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	0	0	0
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	0	0	0
	特別収支差額		853,580	2,029,796	△ 1,176,216
	[予備費]		(6,500,000)		5,000,000
基本金組入前当年度収支差額		△ 54,207,420	4,625,704	△ 58,833,124	
基本金組入額合計		△ 19,725,000	△ 24,351,892	4,626,892	
当年度収支差額		△ 73,932,420	△ 19,726,188	△ 54,206,232	
前年度繰越収支差額		258,537,456	258,537,456	0	
翌年度繰越収支差額		184,605,036	238,811,268	△ 54,206,232	
(参考)					
事業活動収入計		646,219,580	662,113,026	△ 15,893,446	
事業活動支出計		700,427,000	657,487,322	42,939,678	

4. 貸借対照表

貸借対照表は、企業会計でも、その他学校法人を含めた公益法人会計でも、基本的に同じで、決算日(3月31日)における財政状態を表し、学校会計においては、基本金と繰越収支差額が純資産を構成しています。

総資産額3,804,882,692円、総負債額559,709,148円、正味財産3,245,173,544円、負債率(「総負債額」÷「総資産」額)は約6.7%となっています。

貸借対照表

平成30年3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	2,637,758,189	2,712,308,781	△ 74,550,592
有形固定資産	2,637,555,577	2,711,995,085	△ 74,439,508
土地	877,685,167	877,685,167	0
建物	1,564,737,445	1,620,382,553	△ 55,645,108
構築物	24,736,712	24,006,195	730,517
その他	170,396,253	189,921,170	△ 19,524,917
その他の固定資産	202,612	313,696	△ 111,084
流動資産	1,167,124,503	1,078,402,060	88,722,443
現金預金	1,165,382,033	1,074,312,642	91,069,391
その他	1,742,470	4,089,418	△ 2,346,948
資産の部 合計	3,804,882,692	3,790,710,841	14,171,851
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	187,702,832	213,324,000	△ 25,621,168
長期借入金	186,662,000	213,324,000	△ 26,662,000
退職給与引当金	1,040,832	0	1,040,832
流動負債	372,006,316	336,839,001	35,167,315
短期借入金	26,662,000	26,662,000	0
前受金	305,925,680	286,126,500	19,799,180
その他	39,418,636	24,050,501	15,368,135
負債の部 合計	559,709,148	550,163,001	9,546,147
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	3,006,362,276	2,982,010,384	24,351,892
繰越収支差額	238,811,268	258,537,456	△ 19,726,188
翌年度繰越収支差額	238,811,268	258,537,456	△ 19,726,188
純資産の部 合計	3,245,173,544	3,240,547,840	4,625,704
負債及び純資産の部合計	3,804,882,692	3,790,710,841	14,171,851

5. 財産目録

財産目録

平成30年3月31日

I 資産総額	3,804,882,692 円
内 基本財産	2,637,456,349 円
内 運用財産	1,167,426,343 円
II 負債総額	559,709,148 円
III 正味財産	3,245,173,544 円

区分	金額
資産	
1. 基本財産	
土地	3,835.19㎡ 877,383,327 円
建物	9,537.57.㎡ 1,564,737,445 円
構築物	24,736,712 円
教具・校具・備品	131,582,437 円
図書	38,813,816 円
その他	202,612 円
2. 運用財産	
現金預金	1,165,382,033 円
その他	2,044,310 円
資産総額	3,804,882,692 円
負債	
1. 固定負債	187,702,832 円
長期借入金	186,662,000 円
退職給与引当金	1,040,832 円
2. 流動負債	372,006,316 円
短期借入金	26,662,000 円
前受金	305,925,680 円
その他	39,418,636 円
負債総額	559,709,148 円
正味財産(資産総額－負債総額)	3,245,173,544 円

監 査 報 告 書

学校法人 大橋学園
理事会・評議員会 御中

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人大橋学園寄附行為第9条の規定に基づき、学校法人大橋学園の平成29年度の業務並びに財産の状況について監査を行った。

私たちは監査に当たり、理事会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検討するなど、必要と思われる監査手続を実施した。

監査の結果、学校法人大橋学園の業務又は財産に関する不正の行為、または、法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認める。

平成30年5月18日

学校法人大橋学園

監事 西元 勝也 (印)

監事 矢野 範子 (印)